

国際化学肥料ニュース（2015年2月）

肥料業界の2015年2月動態

- * 2月17日、日本の片倉チッカリンとコープケミカルの2社が10月1日付で対等合併する基本合意書を締結した。合併に伴う株式の割り当ては、片倉チッカリンの1株に対して、コープケミカルの0.275株に充てる。合併後の会社名は「片倉コープアグリ株式会社」とする。本件の合併が順調に行けば、日本最大の肥料会社が誕生することになる。

- * ロシアニュース社2月9日の報道によれば、2014年ロシアの塩化加里輸出量1046万トン、前年度より65.5%増、輸出金額27億ドル、前年度より23.4%増であった。

- * 2014年の中国尿素生産量が前年度より100万トン少ない3217.83万トン（N100%換算、以下同）であった。リーマンショック以来の初めての減少である。

- * 昨年7月から原油価格の下落が尿素の国際価格に影響を与え始めた。今年1月からの1ヶ月間だけで約15~20ドル/トン下落し、290~310ドル/トンになった。3月からの栽培シーズンに尿素の需要が増えても、生産コストの低下により価格が290ドル/トン台に維持されるだろうと予測される。
その理由は、世界最大の尿素輸入国インドはナフサを原料とする尿素メーカーが昨年までに原油価格の高騰で生産を中止したところが多いため、輸入量が増え、尿素の国際価格を釣り上げた。しかし、原油価格の下落で、昨年末から順次に生産再開して、今年インドの尿素輸入量が大幅減ると予測される。その証拠は1月27日に開札を行ったインドMMTC社の尿素入札は購入予定量80~120万トン、応札量230万トンであったが、3月以降の価格を考慮して、最終購入決定量が40万トンしかなかった。

大手各社の営業業績

- * ロシアのPhosAgro社が2014年の化学肥料生産量と販売量の数字を公表した。りん酸肥料生産量480万トン、販売量470万トン、2013年よりそれぞれ3.2%、0.8%増であった。また、窒素肥料生産量140万トン、販売量も同じく140万トン、前年度よりそれぞれ5.2%、9.7%増であった。
PhosAgro社のCEO Andrey Guryev氏は、2014年の化学肥料販売量と販売金額が増加した理由はロシア国内、ブラジル、インドの化学肥料需要が旺盛であるためだと述べた。

- * 2月11日、ノルウェーの Yara 社は 2014 年第 4 四半期の営業業績を公表した。肥料販売量が 7%増、工業化学品販売量が 3%増、営業利益（EBITDA）が 92%増の 5.88 億ドル、純利益が 1072%増の 2.42 億ドルであった。

肥料資源の探索と肥料プラント新規建設

- * ドイツ BASF とノルウェー Yara はアメリカに大型アンモニア合成工場を合弁で建設することを発表した。BASF は 68%、Yara は 32%の所有権を持つ。

当該アンモニア工場の建設予定地はテキサス州フリーポート市、シェールガスを原料として、アンモニア生産能力 75 万トン／年、総投資額 6 億ドル、KBR 社が施工を担当する。2017 年末完成する予定。生産するアンモニアは尿素のほか、りん安の原料にも供する。

その他

- * アメリカの Arche Daniels Midland 社（ADM）はブラジル Para 州北部にある Barcarena 港の 50%株式を Glencore 社に売却すると発表した。売却後、ADM 社と Glencore 社が共同で Barcarena 港の運営を管理し、港の貨物取扱量を年間 150 万トンから 600 万トンに増やし、ブラジル北部への化学肥料供給量を安定させる。

2014 年 4 月、アメリカの Mosaic 社は ADM 社のブラジルとパラグアイにある化学肥料業務を 3.5 億ドルで買収した。買収後、Mosaic 社が ADM 社のブラジル向けの化学肥料を供給することになった。

- * ヨルダンとスペインとアカバ港の拡張契約を締結した。アカバ港はヨルダンの唯一の港で、拡張後 10 万トン級船の入港ができるようになる。港の拡張部分はヨルダンのアラビア加里社（APC）とヨルダンりん酸肥料社（JPMC）が所有し、ヨルダンの加里肥料、りん酸肥料とりん鉱石の輸出に供する。拡張工事の施工期間が 22 か月と予定されている。